

「若手研究者支援」国際学会発表	
Protective Factors for Mental Health Problems related to Perceived Anti-Asian Discrimination among Japanese Individuals : A Qualitative Research.	
氏名 牧 美凧	所属 人間発達科学専攻 博士後期課程 1年
期間	2024年 9月 7日～ 2024年 9月 14日
学会・分科会名	European Conference on Mental Health
場所	ICE Kraków Congress Centre , Poland
発表者名、 発表形式	Minagi Maki, ポスター発表

1. 本発表の目的・意義

今回の国際学会参加では、「在外日本人がアジア人差別体験から心を守る方法」をテーマとしてインタビュー調査を行い、そのデータを質的に分析した結果を発表した。発表の目的は次の2つであった。1つ目は、人種民族構成が多様な国の研究者・対人援助職からフィードバックを得ること、2つ目は、自身の専攻である臨床心理学だけでなく、メンタルヘルス（看護学や公衆衛生学など）という幅広い観点からの知見を取り入れることであった。これらの知見を得ることで、日本におけるアジア人差別の研究の発展に寄与するという意義があった。また、European Conference on Mental Healthは白人の参加者が大多数を占め、そのような中でアジア人差別に関する研究発表を行うことで、アジア人差別問題のアドボカシーが期待された。

2. 本学会参加によって得られた成果

本研究では、少数の参加者を対象としてインタビュー調査を行い、データを質的に分析した。そのため、結果には研究者のバイアスが含まれるという問題点があり、解決策として、最終的な結果を示すまでに複数の検証者の関与が必要であった。ゆえに、本発表にて得られたフィードバックは、研究者のバイアスを最小限に抑えることに寄与すると考えられる。

また、口頭発表の聴講を通して、日本では話題になることが少ないと思われるが、欧州では関心が向けられているマイノリティ集団を対象とした支援に関する知見を得ることができた。例えば、欧州で唯一の先住民族であるサーミ人や、長きに渡って迫害を受けてきたロマの人々の精神的健康を向上させるための取り組みについて学んだ。また、マイノリティと関連する概念である難民への支援に関する発表も拝聴することができた。例えば、ロシア・ウクライナ戦争による難民への心理的支援と課題について最前線の情報を得ることができた。これらの知見は、自身の研究対象であるアジア系との相違点・類似点の考察や、支援方法に関する新たな視点をもたらし、今後の研究の方向性を探求する上で大いに役立った。

加えて、本学会参加は欧州の PhD の学生との交流の機会となり、研究や学生生活についての情報交換を行い、今後の自身の活動への良い刺激となった。

3. 今後の展望

今回発表した研究成果は、国際的な学術誌「Cultural Diversity & Ethnic Minority Psychology」へ投稿する準備を現在行っている。

また、本研究の結果を元に、「アジア人差別への対処方法」についての仮説を生成し、尺度開発および大規模サンプリングによる量的調査によって尺度の信頼性・妥当性の検討を行う予定である。この結果は、人種民族マイノリティに焦点を当てた学会「the Biennial Division 45 Research Conference」にて発表予定である。

まき みなぎ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻

・英文タイトル Protective Factors for Mental Health Problems related to Perceived Anti-Asian Discrimination among Japanese Individuals : Qualitative Research.

・英文氏名 Minagi Maki

指導教員のコメント

今回の発表は、牧さんにとって初めての国際学会での発表であり、非常に刺激的な経験となったことでしょう。異なる文化的背景を持つ研究者たちとの交流を通じて、自身の研究に対する新たな視点を得る貴重な機会となったようです。また、牧さんは学会公式 Instagram に学会参加時の写真が nice moments のひとこまとして掲載されました。欧州からの参加者が大多数を占める欧州メンタルヘルス学会において、アジア系の参加者として存在感を放っていたようで、学会での学術交流にも良い影響を与えたと思われます。今回発表した内容の論文化も着々と進めており、支援を受けて国際学会への参加がかなったことで、研究活動への意欲がさらに高まりました。

(基幹研究院人間科学系 教授 石丸径一郎)